



ベルボン製品を正しく安全にお使いいただくために

安全上のご注意



必ずお守りください




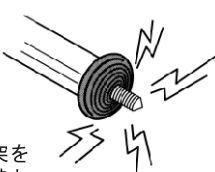





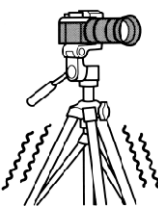



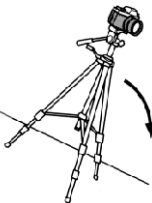






お使いになる人や他の人への危険、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を見逃して、誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し説明しています。

	警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
	注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性・または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

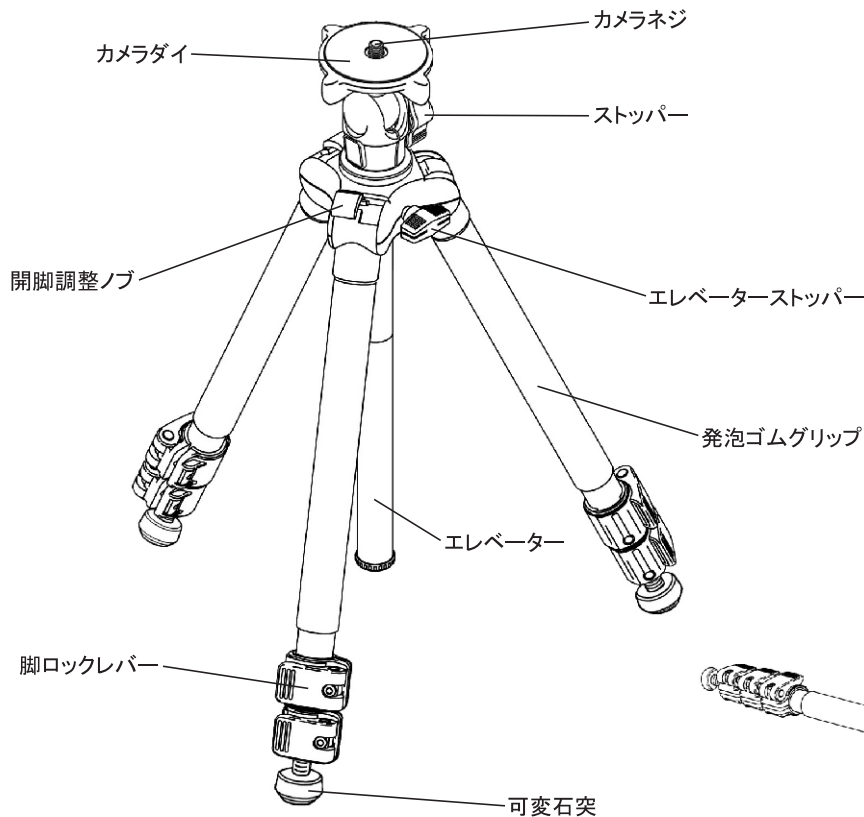
■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し説明しています。

	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

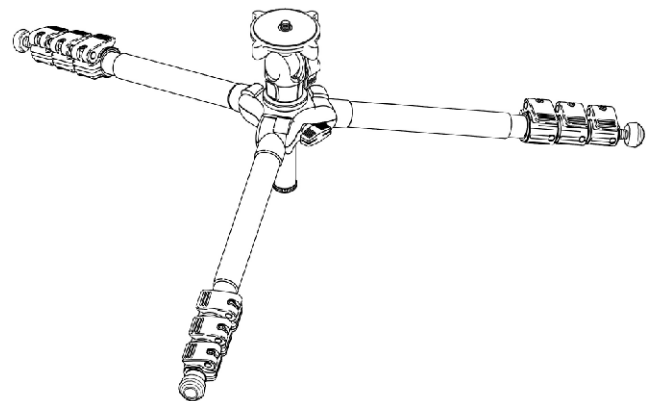
 警告		 注意	
  <p>スパイク付石突を備えた三脚を持ち運ぶときは、安全のためスパイクを出さないでください。死亡や大ケガの原因となります。</p>	  <p>脚を開閉するときは、十分に注意してください。あやまって指をはさむとケガにつながります。慌てずによく確かめて操作してください。</p>	  <p>三脚にカメラを装着したままでの移動は、お避けください。予想以上の力が加わった場合、カメラが落下する恐れがあります。</p>	  <p>三脚の自重の2倍を超えるカメラの使用は、安定性を損ないますのでお避けください。カメラブレの原因となったり、三脚が転倒する恐れがあります。</p>
  <p>カメラを載せたまま脚の伸縮調整や雲台の操作をするときは、カメラ本体を必ず手で支えながら行ってください。三脚やカメラが不意に動き、カメラを破損したり手を三脚にはさみケガをする恐れがあります。</p>	  <p>ぐらついた台の上や傾斜面など、不安定な場所で使用する場合は十分に注意してください。特に高位位置での使用の場合、頭や足の上などに落下すると、死亡や大ケガにつながる恐れがあります。</p>	  <p>各々のネジや固定レバーは、必要なとき以外は確実に固定してご使用ください。ネジや固定レバーがゆるんでいると、三脚の転倒やカメラ破損の原因となります。</p>	  <p>三脚や雲台各部へのオイル・グリス等の補給はしないでください。十分な性能が発揮されなくなる場合があります。</p>
 <ul style="list-style-type: none"> ● 小さなお子様の手の届く所には、設置・保管しないで下さい。手をはさんで倒れたりして、ケガをする恐れがあります。 ● 三脚は、金属部品やカーボン繊維で構成されておりますので通電します。電気の側や高圧線の近くでの使用は避けてください。また、落雷の恐れがある場合は絶対に使用しないでください。 ● 三脚の上には絶対に腰掛けたり乗ったりしないでください。転倒し死亡や大ケガにつながります。 ● 寒冷地でご使用される場合は金属部が凍結する恐れがありますので、素手で操作しないでください。 	 <ul style="list-style-type: none"> ● カメラを取り付けた状態で、不安定な場所に放置したり立てかけたりしないでください。転倒の恐れがあります。 ● 夏季など高温になる自動車内等には放置しないでください。オイル漏れや故障の原因となります。 ● 寒冷地でご使用される場合は十分な性能が発揮されない場合があります。特にビデオ用オイルフリード雲台では、パン・ティルトの動作が重くなったり動かなくなることがあります。 ● 三脚を携帯するときは、部品の脱落防止のため各々のネジ等を、しっかり締めつけて持ち運びしてください。 ● 写真機、ビデオ、望遠鏡等での撮影・観察以外の目的で使用しないでください。 		

各部の名称

このたびは、ベルボン三脚をお求めいただきまして、まことにありがとうございました。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。



エル・カルマーニュ
El Carmagne 433Ⅱ



エル・カルマーニュ
El Carmagne 443Ⅱ
(ローポジション)

※ローポジションはどちらの機種でも可能です。

仕様

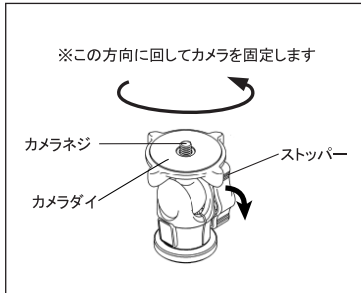
	El Carmagne 433Ⅱ	El Carmagne 443Ⅱ
雲台	QHD-51	QHD-51
全高	約1445mm	約1285mm
エレベータースライド	約315mm	約245mm
ローポジション	約215mm	約190mm
縮長	約525mm	約425mm
質量	約1180g	約1170g
脚パイプ径	22・19・16mm	22・19・16・13mm
段数	3段	4段
最大積載カメラ質量	2.5kg	2.5kg

エル・カルマーニュ
★ **El Carmagne 433Ⅱ / 443Ⅱ** は……

脚素材には極めて軽く剛性の高いカーボンファイバーを使用。雲台には高精度で操作性も良い自由雲台「QHD-51」を装備。超小型・超軽量なボディは旅行や登山に威力を発揮。また脚の伸縮・固定はレバー式なので、わずかな力で簡単に操作が可能。携帯性・操作性とも抜群な高性能小型三脚です。

※記載の数値は平均的な値です。三脚は組み合わせ部品で構成されておりますので、記載数値と若干異なる場合があります。

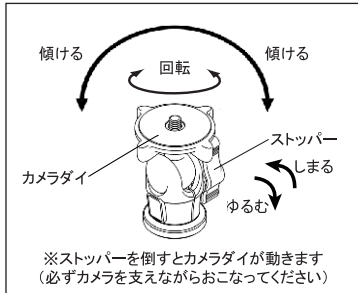
雲台の使いかた



※この方向に回してカメラを固定します

カメラ側のネジ穴にカメラネジを合わせ、ストッパーをゆるめてからカメラダイごと上図矢印方向に回して、しっかりと締め付けます。

※カメラダイを垂直に倒した位置で行くと、カメラの底面が見えるので楽に取付けできます。

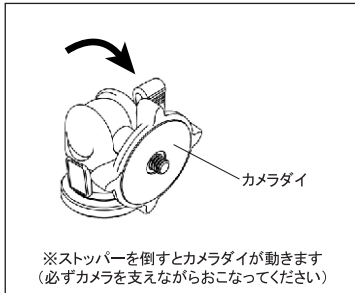


※ストッパーを倒すとカメラダイが動きます(必ずカメラを支えながらおこなってください)

ストッパーをゆるめると、カメラの向きを自由に動かせます。構図が決まった位置でストッパーを締めて固定します。

⚠ ストッパーをゆるめる際は、必ずカメラを手で支えながらおこなってください。急にカメラが倒れケガや破損の原因となります。

縦位置撮影



※ストッパーを倒すとカメラダイが動きます(必ずカメラを支えながらおこなってください)

縦位置撮影の際は、カメラダイを垂直に倒して撮影します。左右両側に倒れますのでカメラのストロボがレンズの光軸より上になる方向を選んで倒してください。

雲台を交換するには

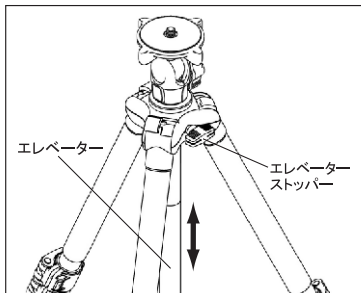


※雲台を回して取り外します

雲台を外して交換する場合は、雲台のストッパーと本体のエレベーターストッパーをしっかりと締め、雲台全体を反時計回りに回して外してください(上図矢印方向)。他の雲台に交換することができます。

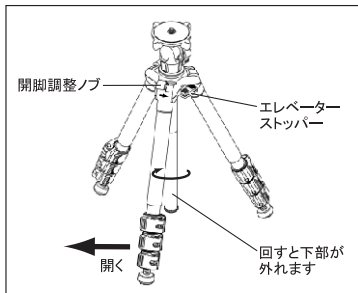
※雲台取付けネジはUNC1/4サイズ(細ネジ)。

エレベーターの昇降



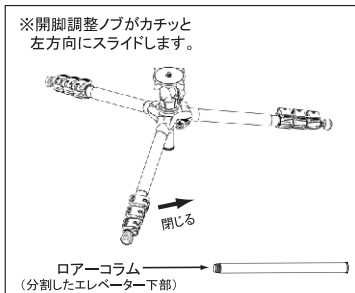
エレベーターストッパーを左に回してゆるめると、エレベーターの昇降ができます。必要な位置でストッパーを右に回して固定します(エレベーターの操作時は必ず機材を手で支えながら行ってください)。

開脚角度の調整①



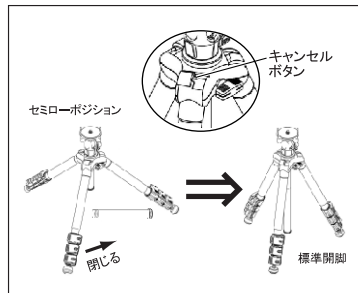
脚を折りたたんだ状態で開脚調整ノブをカチッと止まる所まで右方向へスライドさせます。その状態で脚をいっばいに開くとローポジションとなります(エレベーターはエレベーターストッパーを締めてから下部を回すと分割できます)。

開脚角度の調整②



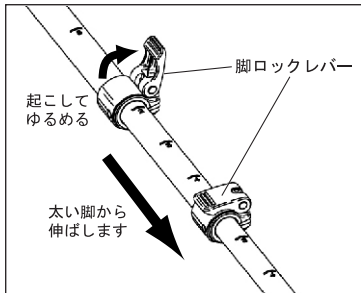
ローポジション(上図イラスト)にした脚をゆっくり閉じていくと、開脚調整ノブが自動的にカチッと左方向へスライドします。この位置がセミローポジションとなります。

開脚角度の調整③



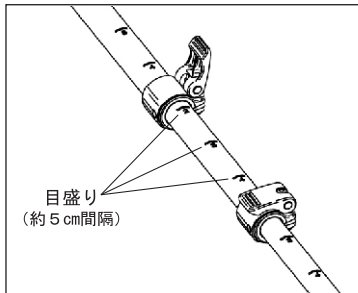
さらに脚を閉じていくと、再び開脚調整ノブが自動的にカチッとスライドして、標準開脚に戻ります。なお誤ってノブをスライドさせてしまった時には、キャンセルボタンを押すことによって元の位置に戻すことができます。

脚の伸縮



脚を伸ばす時はレバーを起こしてロックをはずし、上の段から順に伸ばします。脚の長さが決まったらレバーを押さえてロックします。縮めるときは逆に下の段から順にしまってください。

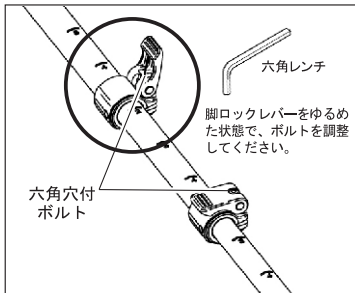
目盛りについて



脚パイプには約5cm間隔で目盛りがふられています。目線位置など、すばやく決まったところまで脚を伸ばす際の目安とすると便利です。

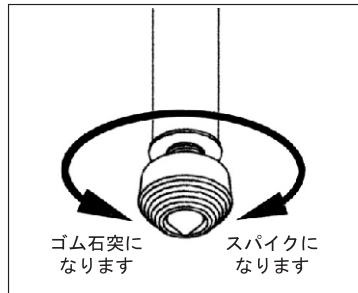
※この目盛りはあくまで目安であり、精密に計ってふられているわけではありません。

脚ロックレバーの調整



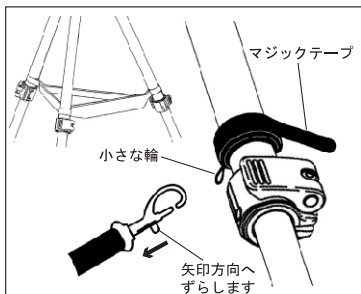
長期間の使用等で、脚ロックがゆるくなった場合には、上図の六角穴付ボルトを付属の六角レンチでしめて調整します。六角穴付ボルトをしめすぎると、脚の伸縮がしづくなりますのでご注意ください。

可変石突



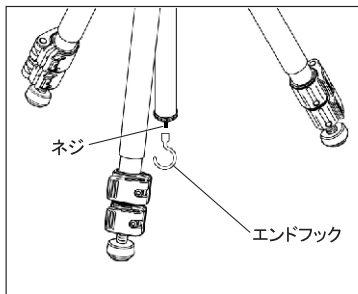
脚先端部は可変石突になっています。設置する地面の状況に応じて先端部を回し、ゴム石突とスパイクを交換してご使用ください。なお携帯時は危険ですので、必ずゴム石突にしてください。

ストーンバッグ



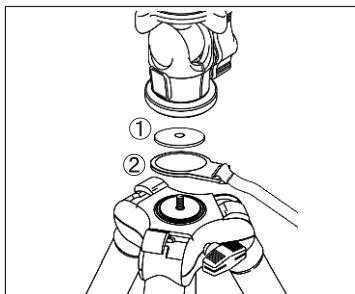
風の強い場所では、重し入れとしてストーンバッグをお使いください。バンドの小さな輪ができている方を内側にして、上図の部分にマジックテープできつく巻きつけます(三箇所とも)。その輪にストーンバッグのフックを引っかけて使用します。

エンドフック



付属のエンドフックは、上図のようにエレベーター下部のネジに取り付けて使用します。カメラバッグ等を吊り下げ、安定性を確保します。吊り下げたバッグが風にあおられるとブレの原因になりますので、ベルトは出来るだけ短くして吊り下げてください。

レグポシエット



雲台と三脚の間に①ストラップワッシャ、②ストラップリングをはさみます。

⚠ 必ず雲台が確実に取り付けられていることを確認してください。



レグポシエットを使って三脚を持ち運ぶ際には、必ずポシエット部が下側になるようにしてください。

⚠ 雲台が下側になると、ポシエットが抜けやすくなるので危険です。